

◆ 病院情報の公表について

DPC 調査データをもとに全国統一の定義と形式に基づいた指標を作成し、情報公開を行うこととされたことから、当院でも令和元年度の診療状況の指標を公表いたします。

なお、集計項目の結果については、「医療広告ガイドライン」に準じて作成しております。

(参考:厚生労働省ホームページ「[医療法における病院等の広告規制について](#)」)

◆ 集計方法と定義

- 令和元年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)に退院された患者様が対象です。
- 医療保険を使用した患者様のみを対象とし、自動車賠償責任保険や労災保険等を使用した患者様は含まれておりません。
- 入院期間中に、一度も一般病棟に入院されなかった患者様は対象外となります。
(よって、一度でも一般病棟に入院され、「障害者病棟」「療養病棟」「回復期リハビリテーション病棟」より退院された患者様は対象となります。)
- 入院後 24 時間以内に死亡した患者様は含まれておりません。
- 各項目について、症例数が 10 件に満たない場合は、-(ハイフン)で表記されています。

◆ 年齢階級別退院患者数

年齢区分	0 歳～	10 歳～	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～	70 歳～	80 歳～	90 歳～
患者数	0	4	15	9	53	65	157	498	687	307

全退院患者数は 1795 名、平均年齢は 78.9 歳でした。

当院は一般病棟だけでなく、障害者病棟・療養病棟・回復期リハビリテーション病棟を有するケアミックスであること、また介護老人保健施設・住宅型有料老人ホーム等の介護保険施設を併設しており、「医療と介護」が連携し、患者様に寄り添うサービスを提供することに努めています。

関連施設や地域の介護施設の入所者様の受診が多くを占めるため、70 歳以上の患者様が全体の 80% 以上を占めています。

◆ 診断群分類別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

○ 脳神経内科(神経内科)

DPC コード	DPC 名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
0400800499x00x	肺炎等(市中肺炎以外かつ75歳以上) 手術なし 処置2なし 定義副傷病なし	61	29.44	18.69	0.0%	87.41	
010061xxxxx0xx	一過性脳虚血発作 処置2なし	56	7.21	6.22	0.0%	77.86	

160690xx99xx0x	胸椎, 腰椎以下骨折損傷(胸・ 腰髄損傷を含む) 手術なし 定 義副傷病なし	32	62.81	19.40	0.0%	80.16	
110310xx99xx1x	腎臓または尿路の感染症 手 術なし 定義副傷病あり	29	82.79	23.02	0.0%	82.79	
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 処置2 なし 定義副傷病なし	28	85.29	20.84	0.0%	85.29	

脳神経内科(神経内科)における症例数の多い診断群分類上位5位までを表したものです。

第1位は、「市中感染でない細菌性肺炎(医療介護関連肺炎を含む)75歳以上」です。関連施設や地域の施設内で発症した肺炎の方が該当と

なります。また、2位の一過性脳虚血発作とは、一時的に脳動脈が詰まり脳への血流の共有が途絶えてしまうことで、脳梗塞と同じ症状が

出現しますが、短時間で改善してしまうものです。

診断群分類(DPC名称)とは、入院中に最も医療資源を投入した傷病名と手術・処置、副傷病名等の有無により分類した分類名のことを言います。

診断群分類ごとの、患者数、自院での平均在院日数、および全国での平均在院日数、転院率、平均年齢を示しています。

一般病棟を経由して、「障害者病棟」「療養病棟」「回復期リハビリテーション病棟」に転棟し退院された患者様も含まれているため、症例によって、

全国の平均在院日数と自院での平均在院日数が乖離してしまう場合もあります。

● 呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
0400800499x00x	肺炎等(市中肺炎以外かつ75歳 以上) 手術なし 処置2なし 定 義副傷病なし	17	53.76	18.69	0.0%	86.88	
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 処置2な し 定義副傷病なし	12	85.33	20.84	0.0%	88.17	

呼吸器科における症例数の多い診断群分類上位5位までを表したものです。

第1位は、肺炎球菌や黄色ブドウ球菌等の細菌が原因で起こる肺炎で、インフルエンザ等のウィルスが原因で起こる「ウィルス性肺炎」や

マイコプラズマ等の微生物が原因で起こる「非定型肺炎」は含まれていません。年齢や手術・合併症の有無なので、DPCコードの分類が

分かれています。

また2位は、「誤嚥性肺炎」による入院患者様です。誤嚥性肺炎とは、水分や食物が食道ではなく気管に入ってしまうことが原因で起こる肺炎のことです。

診断群分類(DPC名称)とは、入院中に最も医療資源を投入した傷病名と手術・処置、副傷病名等の有無により分類した分類名のことを言います。

診断群分類ごとの、患者数、自院での平均在院日数、および全国での平均在院日数、転院率、平均年齢を示しています。一般病棟を経由して、「障害者病棟」「療養病棟」「回復期リハビリテーション病棟」に転棟し退院された患者様も含まれているため、症例によって、全国の平均在院日数と自院での平均在院日数が乖離してしまう場合もあります。

◎ 整形外科

PCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用 パス
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩, 股等	37	81.70	25.94	0.0%	82.37	
160690xx99xx0x	胸椎, 腰椎以下骨折損傷(胸・ 腰椎損傷を含む) 手術なし 定義副傷病なし	34	79.82	19.40	0.0%	81.03	
160800xx99xx0x	股関節・大腿近位の骨折 手術なし 定義副傷病なし	33	69.06	14.43	3.0%	83.09	
160980xx99x0xx	'骨盤損傷 手術なし 処置2なし	10	68.8	19.59	10.00%	69.7	
-	-	-	-	-	-	-	

整形外科における症例数の多い診断群分類上位5位までを表したものです。

第1位は、大腿骨骨折で当院にて手術を施行した患者様です。主に骨折観血的手術を施行しています。

また2位の胸椎・腰椎の圧迫骨折、第3位の大腿骨骨折の手術後の患者様については、回復期リハビリテーション病棟での

リハビリテーションを目的に、地域の急性期病院から紹介入院された患者様が大半を占めています。

分類(DPC名称)とは、入院中に最も医療資源を投入した傷病名と手術・処置、副傷病名等の有無により分類した分類名のことを言います。

診断群分類ごとの、患者数、自院での平均在院日数、および全国での平均在院日数、転院率、平均年齢を示しています。一般病棟を経由して、「障害者病棟」「療養病棟」「回復期リハビリテーション病棟」に転棟し退院された患者様も含まれている

るため、症例によって、
全国の平均在院日数と自院での平均在院日数に乖離してしまう場合もあります。

◆ 初発の5大癌の UICC 病期分類別並びに再発患者数

	初発					再発	病期分類 基準(※)	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	1	1		1			UICC	第7版
大腸癌		4	6	2	2	1	UICC	第7版
乳癌		1		1	1		UICC	第7版
肺癌			1	1		1	UICC	第7版
肝癌				1	1	1	UICC	第7版

5大癌と呼ばれる「胃癌」「大腸癌」「乳癌」「肺癌」「肝癌」について、入院治療を行った初発患者の病期分類による延べ患者数、再発患者の延べ患者数を示しています。

がんの病期分類とは、国際対がん連合(UICC)によって定められており、癌の進行度合いを示すものが病期(ステージ)分類であり、stage4が

最も進行していることとなります。当院では病期分類基準は、国体対がん連合(UICC)のTNM分類7版を用いています。

◆ 成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均 在院日数	平均年齢
軽症	33	45.03	82.52
中等症	43	32.26	81.21
重症	5	20.8	80
超重症	3	64.67	81.88
不明	-	-	-

入院の治療目的が「肺炎」であって、市中肺炎の患者様を重症度別に示したものです。(誤嚥性肺炎、ウイルス性肺炎は除く)

重症度は、日本呼吸器学会「成人市中肺炎診療ガイドライン」による、A-DROPスコアの定義に基づき判定しております。

5点満点で、「4点～5点:超重症」「3点:重症」「1点～2点:中等症」「0点:軽症」となります。

成人市中肺炎とは、普段の生活の中で罹患する肺炎のこと言います。20歳以上の患者様を対象としております。

入院後に発症した場合の肺炎や、食べ物の誤嚥が起因で発症した誤嚥性肺炎の患者様については、この指標の対象ではありません。

◆ 脳梗塞のICD10 別患者数

ICD10	傷病名	発症日から	患者数	平均 在院日数	平均年齢	転院率
I63\$	脳梗塞	3日以内	71	51.69	82.07	2.82%
		その他	56	102.63	76.82	0.00%

入院中に医療資源を最も投入した傷病名が「I63\$ 脳梗塞」であった患者様を対象とし、発症から入院までの日数別に症例数、平均在院日数、平均年齢、転院率を示しています。

発症より3日以内の患者様は、主にエダラボン(脳保護剤)による治療を含む、点滴治療を行っております。また早期より積極的にリハビリテーションを行い、機能回復を目指しています。院内の回復期リハビリテーション病棟への転棟も促し、継ぎ目のないリハビリテーションの実践に努めています。

◆ 診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

○ 循環器内科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用 パス
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術(その他)	18	13.22	24.83	0.0%	74.28	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

循環器内科における、症例数の多い手術上位5位までを表したものです。

手術術式の点数表コード(Kコード)に対する患者数、平均術前日数、平均術後日数、転院率、平均年齢を示しています。

—入院期間で手術を複数回

行った場合は、主たる手術(一番点数の高い手術)のみをカウントしております。

平均術前日数とは、入院日から手術施行前日までの日数のことをいい、平均術後日数とは、手術施行翌日から退院日までの日数をいいます。

◎ 整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0461	骨折観血的手術(大腿)	24	9.13	77.79	0.00%	86.08	
K0731	関節内骨折観血的手術(股)	14	7.50	97.29	7.14%	80.36	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

整形外科における、症例数の多い手術上位5位までを表したものです。

手術術式の点数表コード(Kコード)に対する患者数、平均術前日数、平均術後日数、転院率、平均年齢を示しています。

一入院期間で手術を複数回

行った場合は、主たる手術(一番点数の高い手術)のみをカウントしております。

平均術前日数とは、入院日から、手術施行前日までの日数のことをいい、平均術後日数とは、手術施行翌日から退院日までの日数をいいます。

◎ 泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	11	361.91	193.64	0.00%	59.55	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	
-	-	-	-	-	-	-	

泌尿器科における、症例数の多い手術上位5位までを表したものです。

手術術式の点数表コード(Kコード)に対する患者数、平均術前日数、平均術後日数、転院率、平均年齢を示しています。

一入院期間で手術を複数回

行った場合は、主たる手術(一番点数の高い手術)のみをカウントしております。

平均術前日数とは、入院日から、手術施行前日までの日数のことをいい、平均術後日数とは、手術施行翌日から退院日までの日数をいいます。

◆ その他(DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	0	0.00%
		異なる	0	0.00%
180010	敗血症	同一	28	1.56%
		異なる	16	0.89%
180035	その他の真菌感染症	同一	3	0.17%
		異なる	2	0.11%
180040	手術合併症	同一	5	0.28%
		異なる	0	0.00%

手術・処置などの合併症に当たるものとして、感染症・合併症の発生率を表しています。

入院のきっかけとなった病名と、DPC 病名(最も医療資源を投入した病名)が「同一」か「異なる」かで集計しています。

合併症の発生率は、臨床上 0 にすることは困難ですが、医療の質の改善に今後も取り組んでまいります。

●播種性血管内凝固症候群:小さな血栓が全身の血管のあちこちにでき、小さな血管を詰まらせる病気です。血液凝固が増加することで、

出血の抑制に必要な血小板と凝固因子を使い果たしてしまい、過度の出血を引き起こす場合もあります。

●敗血症:さまざまな感染症をきっかけに、病原菌が多量に血液の中に入り込むことで起こる重篤な全身の感染症です。

●その他の真菌症:真菌による感染症です。代表的な真菌症として、白癬(水虫)、カンジダ症などがあります。

●手術・処置等の合併症:手術や処置などに一定割合で発生してしまう病態です。術後出血や創部感染などが挙げられます。